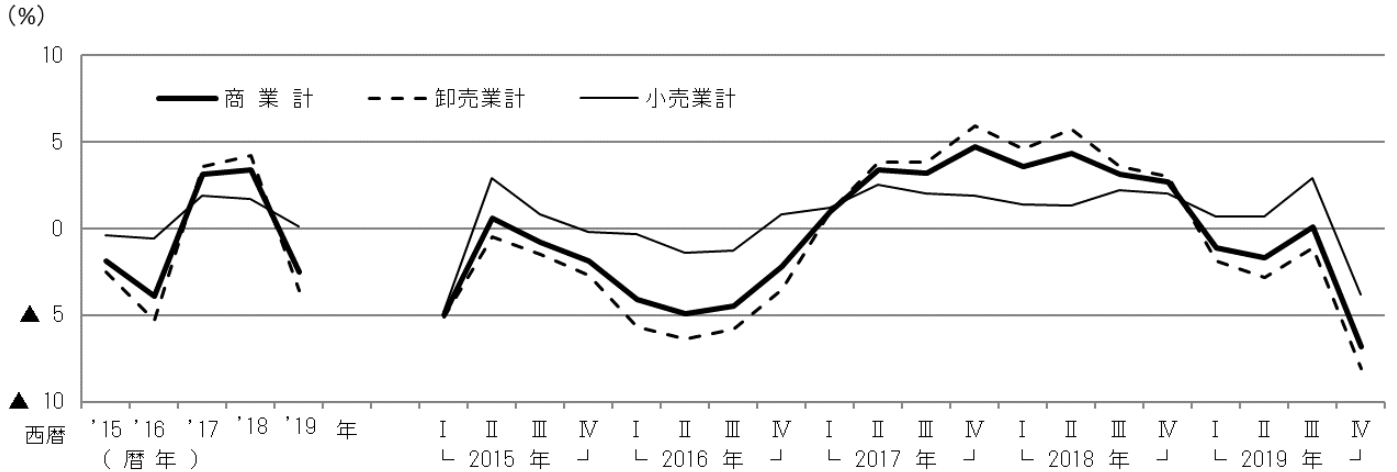


概況

I. 商業販売額の動向

2019年の商業販売額は、前年比▲2.5%と3年ぶりの減少となった(第1図)。卸売業販売額は、同▲3.6%と3年ぶりの減少、小売業販売額は、同0.1%と3年連続の増加となった。

第1図 商業販売額の推移(前年比・前年同期比)

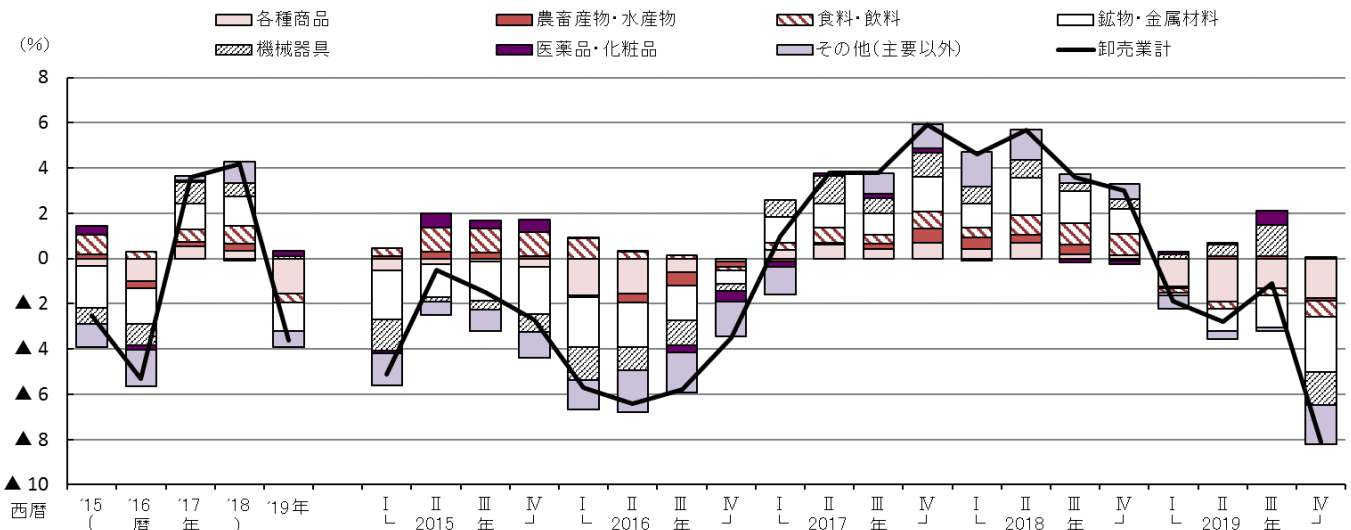


II. 卸売業販売額の動向

2019年の卸売業販売額は、前年比▲3.6%と3年ぶりの減少となった(第2図)。

これは、各種商品卸売業が石油製品の国内外向け減、原油、液化天然ガス、液化石油ガスの輸入減ならびに、鋼材の国内外向け減などにより減少、鉱物・金属材料卸売業が原油、石油製品、液化天然ガスの価格下落による輸入減ならびに、鉄鋼製品、非鉄金属の輸出入減などにより減少、食料・飲料卸売業が、食料品の輸入減や国内向けの減少となったことなどによる。

第2図 主要卸売業業種別寄与度の推移(前年比・前年同期比)



1. 主要業種における年間販売額の動向

- ① 各種商品卸売業（総合商社など）は、石油製品の国内外向け減、原油、液化天然ガス、液化石油ガスの輸入減ならびに、鋼材の国内外向け及び輸出減などにより、前年比▲13.3%と3年ぶりの減少となった。
- ② 農畜産物・水産物卸売業は、前年比0.0%と横ばいとなった。
- ③ 食料・飲料卸売業は、食料品の輸入減や国内向けの減少などにより、前年比▲2.5%と、10年ぶりの減少となった。
- ④ 鉱物・金属材料卸売業は、原油、石油製品、液化天然ガスの価格下落による輸入減ならびに、鉄鋼製品、非鉄金属製品の輸出入減などにより、前年比▲8.6%と3年ぶりの減少となった。
- ⑤ 機械器具卸売業は、電気機械器具が、大型家電の国内向け増ならびに音響映像機器の輸入増などにより増加したことにより前年比0.6%と3年連続の増加となった。一方、産業機械器具が原動機の輸出入減、半導体等製造装置の輸出減、工作機械の国内外向け減などにより減少、自動車自動車部品及び自動車の米国、アジアへの輸出減などにより減少した。
- ⑥ 医薬品・化粧品卸売業は、医薬品の輸出入増ならびに、化粧品の駆け込み需要による増などにより、前年比3.0%と2年ぶりに増加となった。

2. 大規模卸売店における年間販売額の動向

大規模卸売店は、前年比▲4.2%と3年ぶりの減少となった。

これは、石油製品が輸出及び国内向けの減少、原油、ナフサ、液化天然ガス、液化石油ガスの輸入減、鋼材の国内向け及び輸出が減少したことなどによる。

商品別にみると、その他の機械器具、医薬品・化粧品、家庭用電気機械器具が増加となったものの、石油・石炭をはじめ、鉄鋼、一般機械器具、化学製品、その他の商品などが減少となった。

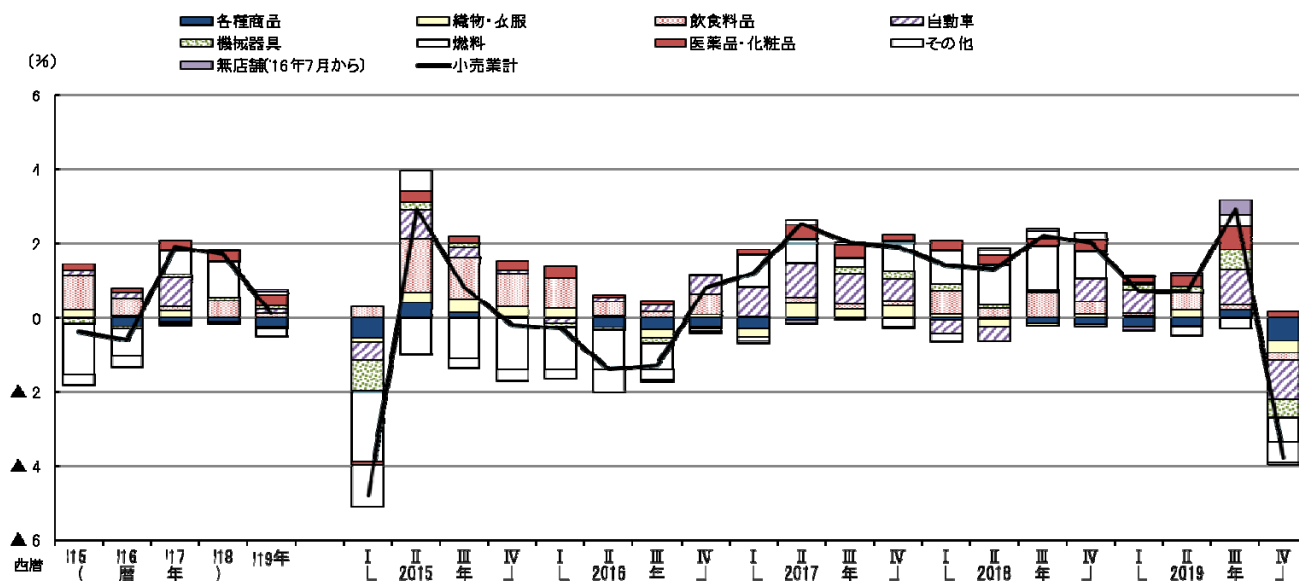
Ⅲ. 小売業販売額の動向

2019年の小売業販売額は、前年比0.1%と3年連続の増加となった（第3図）。

これは、医薬品・化粧品小売業が、ドラッグストアが好調だったことなどにより増加、飲食料品小売業が、総菜に動きがみられたことなどにより増加、自動車小売業が、普通車が堅調だったことなどにより増加、機械器具小売業が、生活家電が好調だったことなどにより増加したことなどによる。

10月の消費税率引き上げにより、第Ⅲ四半期は大幅に増加し、第Ⅳ四半期は増税に伴う販売減がみられた。

第3図 小売業業種別寄与度の推移（前年比・前年同期比）



注：2015年7月より無店舗小売業を特掲して表章している。

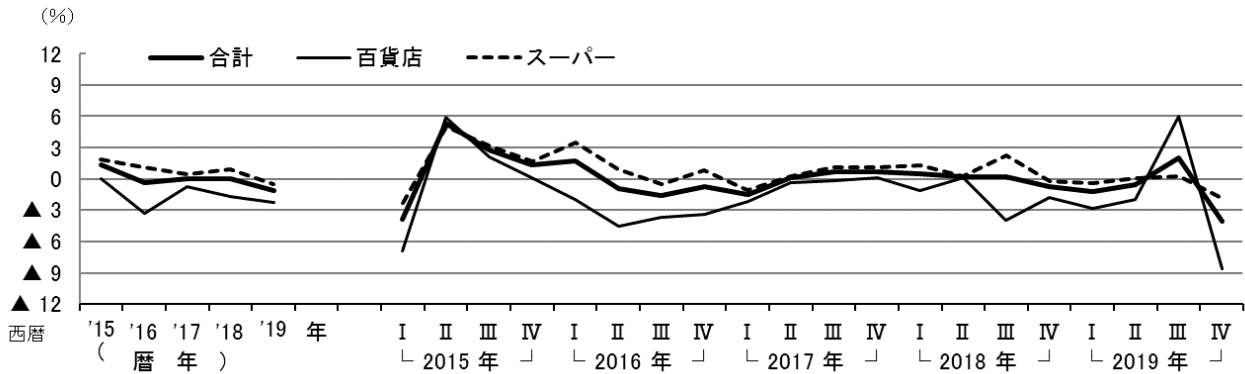
1. 業種別年間販売額の動向

- ① 各種商品小売業（百貨店など）は、相次ぐ台風、暖冬など天候不順の影響から衣料品などの動きが鈍かったことなどにより、前年比▲2.9%と5年連続の減少となった。
- ② 織物・衣服・身の回り品小売業は、天候不順の影響から季節商材が不調だったことなどにより、前年比▲0.5%と2年連続の減少となった。
- ③ 飲食料品小売業は、総菜に動きがみられたほか、コンビニエンスストアの好調などにより、前年比0.4%と13年連続の増加となった。
- ④ 自動車小売業は、普通車や中古車が堅調だったことなどにより、前年比0.8%と2年ぶりの増加となった。
- ⑤ 機械器具小売業は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫などの生活家電やテレビなどのAV家電が好調だったことなどにより、前年比2.0%と3年連続の増加となった。
- ⑥ 燃料小売業は、ガソリンなどの石油製品価格の低下などにより、前年比▲2.6%と3年ぶりの減少となった。
- ⑦ 医薬品・化粧品小売業は、ドラッグストアが好調だったことなどにより、前年比4.2%と8年連続の増加となった。
- ⑧ その他小売業は、天候不順の影響から季節商材が不調だったことなどにより、前年比▲0.7%と2年ぶりの減少となった。
- ⑨ 無店舗小売業は、化粧品や雑貨に動きがみられたことなどにより、前年比1.4%と2年連続の増加となった。

2. 百貨店・スーパーにおける年間販売額の動向

百貨店・スーパーは、前年比▲1.1%と3年ぶりの減少となった(第4図)。
 なお、既存店ベースでみると、同▲1.3%と2年連続の減少となった。

第4図 百貨店・スーパー販売額の推移(前年比・前年同期比)



① 百貨店

百貨店は、前年比▲2.3%と4年連続の減少となった(第5図)。

これは、化粧品や高額商品が好調だったものの、閉店の影響に加え、天候不順により主力の衣料品を中心に低調だったことなどによる。

商品別にみると、衣料品は、天候不順や閉店の影響などにより全ての商品で減少となった。飲食料品は、閉店の影響により減少となった。その他は、化粧品が国内需要、訪日外国人旅行者(インバウンド)需要とともに好調だったことに加え、高級腕時計や宝飾品などの高額商品に動きがみられたことなどにより増加となった。

なお、既存店ベースでみると、同▲1.2%と2年連続の減少となった。

第5図 百貨店商品別販売額の推移(前年比・前年同期比)



② スーパー

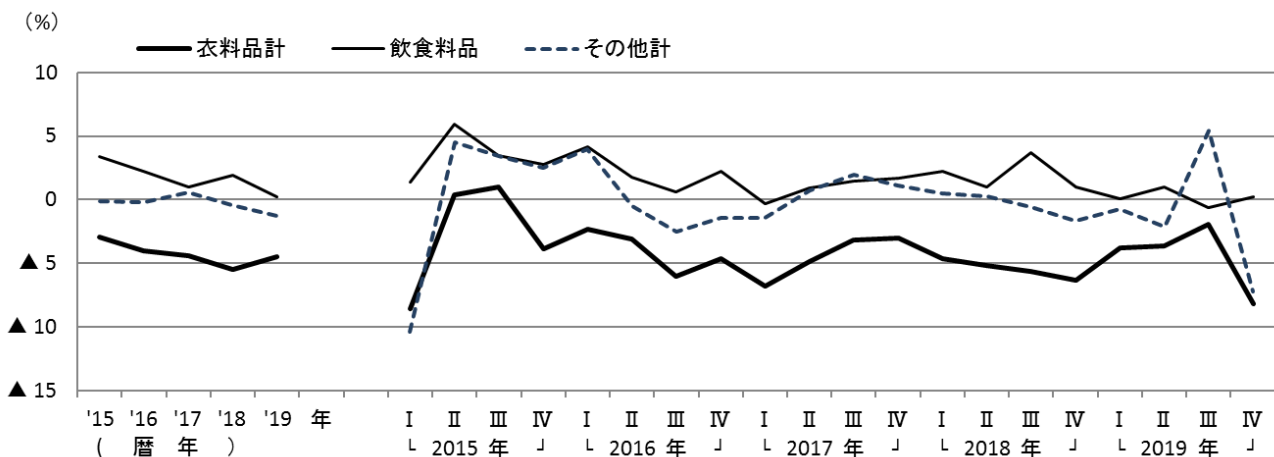
スーパーは、前年比▲0.5%と9年ぶりの減少となった(第6図)。

これは、天候不順の影響や専門店、通販との競合による減少などから、衣料品、家具、家庭用品などが低調だったことなどによる。

商品別にみると、衣料品は、天候不順の影響や専門店、通販との競合による減少などから、婦人服など全ての商品で減少となった。飲食料品は、野菜の相場安に苦戦するも総菜が堅調だったことなどにより増加となった。その他は、家庭用電気機械器具、化粧品などに動きがみられたものの、専門店、通販との競合による減少などから減少となった。

なお、既存店ベースでみると、同▲1.4%と3年連続の減少となった。

第6図 スーパー商品別販売額の推移(前年比・前年同期比)



3. コンビニエンスストアにおける年間販売額の動向

コンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高の合計は、前年比 1.7%と21年連続の増加となった(第7図)。

これは、非食品などが好調だったことなどによる。

商品販売額は、同 1.6%と21年連続の増加となった。

商品別にみると、非食品は、たばこ関連商品などが好調だったことにより、同 2.7%と21年連続の増加となった。ファーストフード及び日配食品は、調理麺、デザート、パンなどが好調だったことにより、同 1.4%と10年連続の増加となった。加工食品は、冷凍食品、ソフトドリンク、アイスクリームなどが好調だったことにより、同 0.6%と10年連続の増加となった。

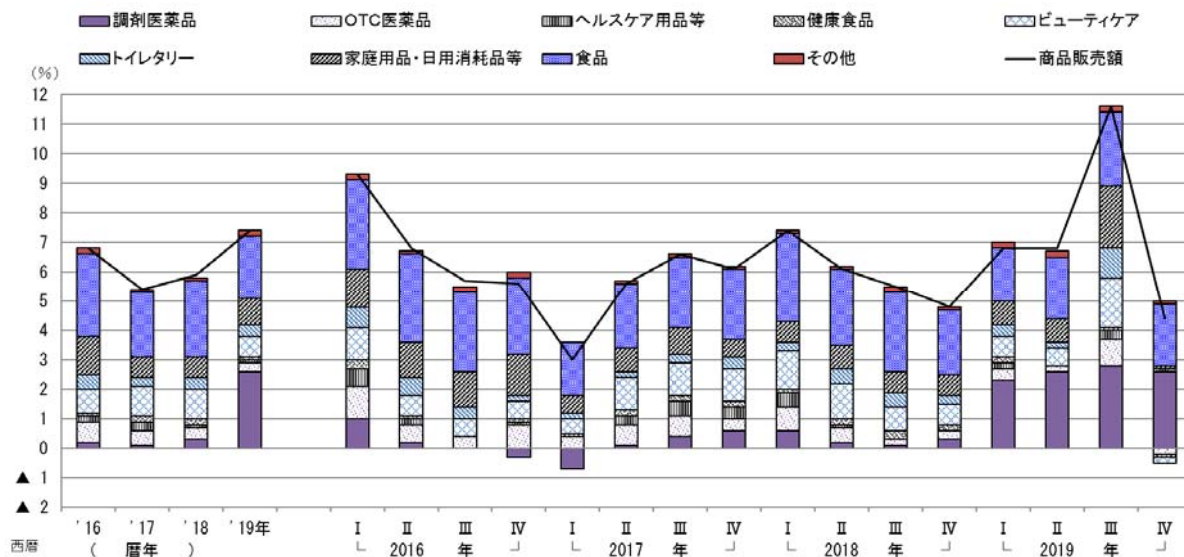
サービス売上高は、各種チケットの取り扱い増やプリペイドカードなどが好調だったことにより、同 4.4%と13年連続の増加となった。

5. ドラッグストアにおける年間販売額の動向

ドラッグストアは、前年比5.6%と5年連続の増加となった（第9図）。

これは、前年から店舗数が762店舗（前年末比5.0%増）増加していることも寄与している。商品別にみると、食品は、取扱いの増加などから前年比7.5%の増加、家庭用品・日用消耗品・ペット用品は、日用消耗品が堅調だったことなどにより同6.2%の増加、調剤医薬品は、併設店の増加などから前年比11.1%の増加となった。また、新店効果に支えられ、残りの商品も全て前年を上回った。

第9図 ドラッグストア商品別販売額寄与度の推移（前年比・前年同期比）



6. ホームセンターにおける年間販売額の動向

ホームセンターは、前年比▲0.3%と3年連続の減少となった（第10図）。

商品別にみると、インテリアは、同▲3.0%と5年連続の減少、オフィス・カルチャーは、事務用品の動きが鈍かったことから同▲3.5%と3年連続の減少となった。

一方、DIY用具・素材は、建材、住設機器に動きがみられたことにより同1.2%と2年連続の増加、ペット・ペット用品は同1.9%と2年ぶりの増加となった。

第10図 ホームセンター商品別販売額寄与度の推移（前年比・前年同期比）

